

海外日誌(四)

Yerkes Observatory, Williams
Bay, Wisconsin, U. S. A.

山本 一 清

一月一日(月)

今日は世界中の休日。朝起きて「Happy New Year」の連發。しかしどうも人々の氣分が、クリスマスの日ほど嬉しそうではないらしい。

朝食後、暫くして、天文臺構内の宅へ挨拶に行く。

元旦早々、バーナード氏病氣との事を聞いた。之れはまことに、當天文臺としては珍らしいことで、又、悲しいことだ。早速見舞に行き、きけばバーナード氏は糖尿病が持病であるのに、昨年末以來觀測に餘り勵み過ぎた結果だといふ。御本人はそれでも、早く床を離れたがつて、モザ／＼してゐられるらしいが、醫師の言によれば當分、少なくとも數週間には床を離れられない。之れがため、四十時望遠鏡による觀測のプロگرامは俄かに變更された。パークハースト氏の時間が一週三度に増した。此の時には、自分も一しよになつて變光星の觀測をする筈である。

一月二日(火)

日本ならば「三ヶ日」の中であるのに、此の國では、もはや新年を忘れたかのやうに、人々は平氣な顔付きで、仕事を始める。

パンビー氏はストルフェニと共に、いよいよ二十四時反射鏡で、微光小遊星の觀測をする計畫をたてゐる。自分も、バーナード氏の病氣中、ブルースを用ゐることとし、時間を定めて、やはり小遊星の觀測及び發見の一部を分擔することにする。其の外、自分としては、毎週、火、木、土の三日間、パークハースト氏と共に四十時大望遠鏡で極微光變光星の觀測することに定まる。

一月三日(水)

天氣は悪い。自分は終日、圖書室で讀書。

一月四日(木)

圖書室で二重星に關する書物など讀む。

一月五日(金)

夕方、パークハースト氏を訪問、ボストン行ききの土産話。

夜、天文臺からの歸途、リー氏宅に立寄り(英子も同道)やはりボストンの土産話。

一月六日(土)

午前中、村へ買物に行つた。午後には、リデル氏やバレット夫人と共に、自分等二人はパーク氏の自動車に乗せて貰つて、レッキ・ゼネバに行き、買物などした。雪空で寒い。

一月七日(日)

午前十一時、教會で禮拜。

午後、ブラウスリー氏を訪問。夜は(日曜だけれど)餘り暇なので天文臺圖書室へ行つて讀書。

一月八日(月)

パークハースト氏の室で白鳥座ヒ一星の寫眞光度を測定する。空は續けさまに曇つて、觀測は晝の方も夜の方も、少しも出来ない。

一月九日(火)

昨夜、遅くまで勉強したので、今朝は非常にねむがつた。それ故、思ひ切つて、午前十一時半まで眠りつゞける。そのため、午後の氣分極めて爽快!

今夜、新年になつて始めての晴天だ。夕食後、早速、自分はブルース寫眞機室に入つて、小遊星の撮影第一回を試みる。寒さは寒いけれど、愉快に働らいた。

午後十時からパークハースト氏と共に四十時大望遠鏡室に入つたが、星像が悪くて、寫眞撮影は出来ない。そこで、變光星の觀測をやつた。

一月十日(水)

今日も、すいぶん、朝ね坊をした。

一月十一日(木)

晝の間は晴れたため、十二時で太陽寫眞を撮つたりしたが、夜は又々曇り。

パークハースト室で光度測定。

一月十二日(金)

今日はよく晴れた。日が暮れるや否や、ブルース室に馳け込んで撮影。十時過から曇り。

一月十三日(土)

朝早く、金星の掩蔽がある。午前四時から起きたが、東天に雲が浮んでゐるので、机にもたれ、うさ／＼してゐる内、五時過になつて晴れ。大急ぎブルース室に入つて、月の蔭から金星が出て来たところを向けて、四枚の寫眞を撮つた。之れは午前中にブラクスリー氏が立派に郭大して焼いてくれた。一枚京都へ贈る。

フロスト氏は電話で、「ごこの新聞社へ」[Japanese Professor が金星掩蔽の寫眞を撮つた]と知らせせてゐる。

一月十四日(日)

今日は教會行きを止めて、宅でごろ／＼してゐた。午後は、散歩のついでに、二人共、天文臺の圖書室へ行つて讀書。

一月十五日(月)

曇りで仕方がない。終日、天文臺の圖書室で變光星用の星圖を作る。

一月十六日(火)

今日はよく晴れた。夕食後、ブルース室へ行つて、牡牛、双子あたりの黄道を撮影した。六枚。皆小遊星觀測のためである。午後十時から、パークハースト氏と共に四十時のドームへ入つたが、生憎、今夜も星像が悪しくて、寫眞撮影には適しない。そこで變光星を三観測した。

一月十七日(水)

今日は朝九時から始めて、午後五時まで、續けさまに、パンピー氏と「ヤーキース天文臺第六號」といふ小遊星の圓軌道を計算する之れはパンピー氏が去る十一月二十四日、二十四時反射鏡によつて發見した新小遊星であるが、天氣悪のため、十二月二十二日に至つて、見失ひ、其の後、觀測不能となつたものである。

夕方、リー氏へ招かれて晚餐の饗應を受け、それから、話したりカルダなしたりして午後十時歸宅。空は曇り。

一月十八日(木)

日没後、ブルースで小遊星觀測のために数枚の撮影をし、それから又、オリオン星雲と、スバル星團の撮影をした。十時、ブルースから本館へ歸つて見れば、今、四十時のドームから下りて来たリー氏が、自分の室の前から、こちらを振り返つて、「ハロー Come here Mr. Yamamoto!」といふ。何かと思つて行つて見ると、机の上に、美味しそうな菓子が澤山盛つてある。由來をきけば、今日はハーマソン夫人の宅のおよばれで、村の人々は皆御馳走になり、同夫が、我々觀測者どもは、時間の都合上、行かれなかつたのを、同夫人の機轉により、之れを贈つて来て下さつたのだといふ。之れや有難い。夜は更けて、お腹はすいて居るどころだ。皆大喜びで頂戴する。それから、自分は、パークハースト氏と共に四十時のドームへ登つたが、やはり星像は悪い。寫眞は止めて、變光星の觀測。午前二時終る。

一月十九日(金)

英子は變光星の光度曲線を書く。自分は終日プリング顯微鏡で小遊星の點檢。此の仕事は單調で、機械的で、それに寫眞板が大きく従つて星の数が多いため、疲勞すること甚だしい。

一月二十日(土)

終日、英子と共に、變光星觀測用の星圖を書く。夜、フロスト夫妻に誘はれて、ヒリー氏へ行き、活動寫眞を見る書は「Power within」といふ題の小説見たいなもの、可なり面白かつた。今日は、しかし、見に来た人は極めて少なかつた。

午後十時、ヒリー氏宅から天文臺へ歸り、直ちに自分はパークハースト氏と共に四十時のドームに上り、ルムフォード部の寫眞を二枚撮影した。空はよく晴れ、星像も好い。温度は華氏十度。

一月二十一日(日)

午前十一時、教會に禮拜。

午後、ひるれ。午後四時、フロスト氏を訪ひ、来る九月カリフォルニアへ日食觀測に行く遠征隊の豫定などにつき相談す。

夜觀測不能。